

Campus Asia SPTC reports

ソウル教育専門大学院
環境・持続可能な発展教育
鄭 在娟

1. 教育交流プログラム

A. 東京学芸大のキャンパスツアー

日本の学校は全体的に部活動が活性化されていたが、キャンパスのあちこちで活動の痕跡を見ることができた。キャンパス自体は韓国の大学よりも緑地が多く、自然と調和する感じだ。木が本当に多い、建物の壁や垣根が植物で覆われているグリーンカーテンが多く設置されている。学校農場もかなり大きな規模で運営されているが、その農場を中高等学校の生徒たちと地域住民たちもともに栽培しているという部分も印象深かった。

B. 学生交流シンポジウム

韓、中、日の三国の学生たちが集まって、各国の台頭される教育的問題について話し合った。最も近い国なので同様の姿も多くあったが、思ったより問題の様相や問題解決過程においては差が大きかった。思わぬ差を分かるようになってお互いに驚きいる姿が楽しいし、また、お互いの問題について一緒に悩んだりアドバイスする過程が暖かくて意味があった。発表や討論後には三国の学生たちが同じテーブルに会していろいろな話を交わしたが、言語の障壁にもかかわらず、一生懸命に疎通するために努力する姿が本当によかった。

C. 中央中高等学校/世田谷小学校訪問

中央大学の付設中高等学校は卒業生の多くが中央大学に入学する不思議な入試制度を持っていた。学校の建物が、大学に匹敵する規模だということが驚くべきものがあって、素敵な図書館は、卒業論文作成のためのものというのも不思議だった。平凡な学校ではないようであったが、教師の方と対話しながら学校現場で感じる問題点や、学生たちに対する考えなどは大きく違わず、さまざまなテーマに話を交わすことができた。

世田谷小学校では日本の小学生を対象に直接授業をやってみた。日本語が流暢ではなくて心配が多かったが、意思疎通の困難を解決していく過程も教育という先生たちの応援が大きな力になった。

韓国に対する簡単なクイズ後に伝統遊びの面子を一緒にやってみることを授業内容に設定し、切符

の裏に子供たちの名前をハングルで書いてくれて本当に好きだった。授業の後は子供たちが文在寅(ムン・ジェイン)大統領、独島問題、キムチの種類など考えられなかった質問をたくさんして狼狽したり、不思議な気がした。

2 . 文化体験プログラム

A. 書道体験

韓国の書道と大きく変わらない、カリグラフィー体験だ。それで大きな感興はなかったが、ひらがなで自分の名前をどう書くか知らせていただいて、ゆっくりと十分に書いて見る時間を持つことにより、精神修練する気分を感じることができた。

B. 江戸東京たてももの園・国分寺スタディー・ツアー

江戸時代東京中心街を復元しておいた野外博物館であるにも東京建築博物館を見学した。ガイドしてくれる方達がすべて年取ったおじいさん、おばあさんたちでしたが、英語もよくして一生懸命に説明してくれる姿が格好よかった。

国分寺は平和を称え、各所に建てられたお寺だから、日本国内に複数の国分寺があるという。その中で最も有名な国分寺であるためか、近く定員の規模もとても大きかった。ひどい暑さに見学することが大変でしたが、日本の漢字が漂う所を観光しながらいろんな話を聞くことができて楽しかったりした。

C. 日本文化体験(着物・茶道)

着物なら以前に、日本の旅行の時一度着てみたことがあるが、こんなに伝統家屋で茶道体験と一緒にだからもっと良かった。特にお茶を入れ前、煮ながら、おもてなししながら最善をつくす姿が印象深かった。そんなにもてなしを受けた味車は本当においしかった。全般的に日本は伝統を今までよく保存してきているという気がした。

3 . 個人の感想

日本に行く前、このプログラムに対する期待感は50対50ほどだった。まず、個人的に日本に関心が多いため、日本の教育を直接経験して読むことができるという期待感があった。しかし、一方では学部生の時、すでに海外インターンシップを行ってきた経験があるが、投資する価格や時間に比べて満足度がそんなに高くないために大きな感動はないだろうと思った。結論から言えば、私には二つの理由でとても満足な経験だった。

第一に、成功的なプログラム遂行のための日本側の努力がものすごく大きかった。一週間という長くない期間中、留学生たちが充実な時間を過ごすことを望む心がいっばいに感じられた。教授たちが不便な部分はないのか、希望する部分はないのか聞いてみてくれて、毎日変わるアシスタント学生たちも終始一貫して親切な態度で私たちをしてあげた。最後まで補完する部分を何度も聞いて、次にする時は辛くていた部分を確実に改善するは意志を持つことも格好よかった。時にはとても暑い天気ハードなプログラムを消化して疲れたりしたが、その、日本文化体験の一部だと思う。

第二に、韓中日の交流の機会が本当に多かった。教育シンポジウム、日本教師方々との対話、小学校での実習などを通じて三国の学生が教育現場について絶えず話を交わした。言語の障壁があってもかかわらず互いに理解しようと努力する姿が温かく、その過程で本当に友情を交わしてきた場合もあった。それでプログラム日程以外にも一緒に時間を過ごしながらかしい思い出を積むことができた。

学部卒業の後で、Campus Asiaという事業ができて、学部生を本当にうらやましがった。幸い、大学院に入学してもこのようにいい機会に日本に行けるようになって感謝の気持ちだ。個人的に日本を旅行したのもたっぷり数度だが、確実に感じたのは今回に金を払ってもできない経験をしたということだ。私の個人的な経験からも、そして教師としての教育的な経験からも大切に記憶されそうだ！皆さん、ありがとうございましたー♡

4. 活動の写真

